

国民の誰もが「郵便局は国営のままがいい！」

小泉「郵政民営化」は、ユニバーサルサービスの破壊！

先に行われた衆議院選挙では「郵政三事業の民営化」が選挙の争点の一つになりました。自民党のマニフェストでは、「〇七年四月に民営化する方針を決め、一年間かけてこのような民営化案がどうか国民的論議を行い、〇五年に国会に法案を提出する」としています。

最近の世論調査では、六割近くの国民の方が「国営のままがいい。」と答えています。が「民営化」は国民にとってどんなメリットがあるのでしょうか？

すでに民営化されたニュージーランドやドイツでは、利用度の少ない郵便局の閉鎖や口座が持てない人が増え、廃止された郵便局が、また国営でつくられています。

全国銀行協会の要望は、一〇〇〇万円の限度額を撤廃し二〇〇万円まで引き下げる、利子が少ないうえに口座維持料や手数料を取り縮小させようとしています。「民営化」では「安全・安心の郵便局」が揺らぐ事態に成りかねません。

私たち郵産労は、身近な「郵便局」を民営化することには反対です。

《発行者》
郵政産業労働組合
 〒170-0012 東京都豊島区上池袋 2-34-2
 TEL03-5974-0816
 FAX 03-5974-0861
 e-mail: yusanro@mx2.alpha-web.ne.jp

2003.11 作成

深夜10時間、四日連続勤務では働き続けられません！

郵便局では郵便物を翌日に配達させるため、その処理を夜間中心に行っています。今でさえ14時間にも及ぶ長時間労働のために健康破壊と現職死亡する人が後を断ちません。（十年前に導入された「新夜勤」で一〇〇人を越える人が、すでに現職死亡で亡くなっています。）

来年2月には三二〇局二万人を対象にしたサービスの改悪「昼間働き、夜眠る」と言う人間の生理をまったく無視し、労働者の健康と命さえ奪いかねない勤務案が提案されています。若者はデートも結婚も遠退き、夫婦の営み、家族の団欒、子育てにも関わらず、社会生活もままならない状態も生まれます。

郵便事業を支える労働者は十年、二十年と働き続ける事は困難になり、中高年労働者には早期退職を迫るものです。深夜四連続の勤務の導入は、絶対認めることは出来ません。公社は、提案したサービスの改悪を見直し、人間らしい働き方に変えるべきです。

勤務指定の例(一般局①) 【4連続10H深夜勤による服務編成】

区別	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	勤務時間/VW
一項目	10H深	10H深	10H深	10H深	10H深 解放日	非番日	週休	10H×4 =40H
二項目	8H夜	8H夜	非番日	8H中	8H夜	週休	8H中	8H×5 =40H
三項目	10H深	10H深	10H深	10H深	10H深 解放日	非番日	週休	10H×4 =40H
四項目	8H夜	8H夜	非番日	8H中	8H夜	週休	8H中	8H×5 =40H

＝ 中止を求める要請先 ＝

日本郵政公社総裁

生田正治様

〒100-1879

千代田区霞が関1-13-11